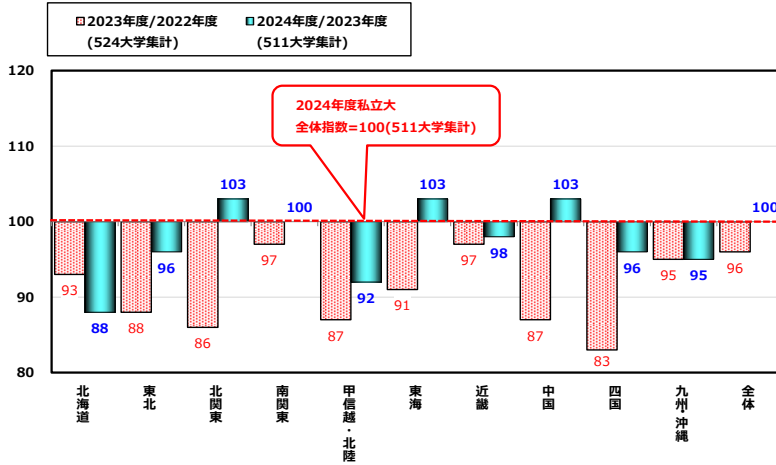


※本文中の( )内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

## ◎地区別志願状況・合格状況

### □志願者数は北関東、東海、中国がやや増加だが、北海道、甲信越・北陸が減少

#### 〔私立大一般選抜 地区別志願状況〕



大学本部の所在地別の志願状況では、北関東(103)、東海(103)、中国(103)はやや増加ですが、北海道(88)、甲信越・北陸(92)は減少、九州・沖縄(95)、東北(96)、四国(96)はやや減少です。

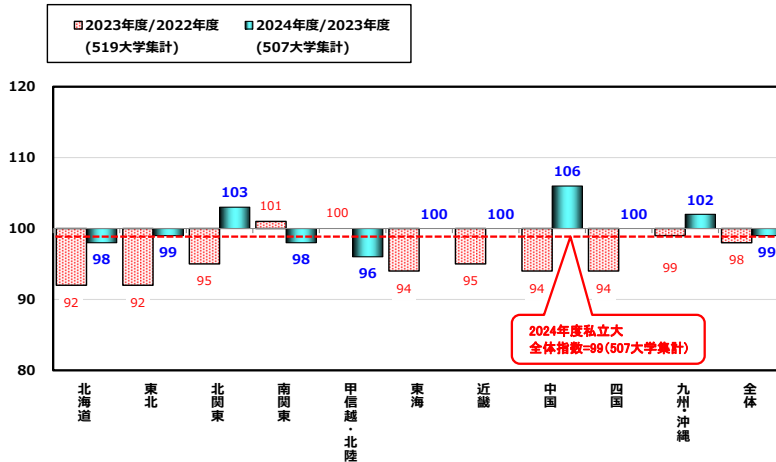
募集人員の多い大規模な総合大学が所在する3大都市圏の動向について見ていきます。南関東(100)は私立大全体指数と同じ、東海(103)はやや増加、近畿(98)は微減となっています。東海は、中部大、愛知淑徳大などで大幅増加しており、これが地区全体のやや増加に繋がっています。

コロナ禍の収束により南関東や東海への受験生の流れが戻りつつあることがわかります。

北関東の増加は獨協医科大の新しい入試方式の導入、中国の増加は広島修道大の新しい入試方式の導入や入学検定料の割引制度導入で増加したことが地区全体の増加の一因です。一方で、北海道は旭川大が公立大学化したことにより集計から除外されたことが減少に繋がっています。

### □合格者数は中国、北関東がやや増加だが、甲信越・北陸がやや減少

#### 〔私立大一般選抜 地区別合格状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の地区別の延べ合格者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

中国(106)、北関東(103)はやや増加です。一方で、甲信越・北陸(96)はやや減少です。その他の地区では前年度並となっています。

系統別と同じように、「合格者指数－志願者指数」の値を見ると、東海(-3)、南関東(-2)は競争激化ですが、北海道(+10)、九州・沖縄(+7)、甲信越・北陸(+4)、四国(+4)は競争緩和しています。